

第5章 所有権と競争体制 (P.157-189)

1 平和的な所有権 (157-170)

- \* 金銭的体制の社会的福利への影響 (157L8-1)
  - 財貨消費における際立った階級的差異 (157L8-6)
    - ・ 物質的利害の階級的分岐
    - ・ 階級の特権と差別的な辛苦
    - ・ 富の証左としての財貨，用役の見せびらかしの浪費
  - 略奪的組織から平和的組織への移行がもたらした職人技への技術的影響 (157L4-1)
    - ・ 職人技に有利な面と，そうでない面 = この研究の目的にとって必要
- \* 産業に関わるようになった2つの典型的な金銭的階級の関心と注意の分化 (158R1-161R2)
  - 職人，労働者，職工，技術者……即事実に論理に対する前向きな探究 (158R1-159R5)
  - 平和的な所有権体制下での所有者……土地，自然資源の所有者 所有者階級の発生
  - 契約関係 利潤の追求 価格組織の論理を強いられる 金銭的観念 = 利己主義的性癖と感情の観念 (159R6-L2)
    - ・ 習慣的な訓練は，職人的ないし技術的洞察の代わりに，世故にたけた知恵に導くのである。(161R1)
- \* 企業と産業との訓練の差異から引き起こされた習慣と知的精神的態度の対照 (161R3-162)
  - その専門化は完全で不変であったわけでもなく，……知的精神的態度という点での区別が，二つの対照的な階級をそれほど決定的なあり方で別々にしてしまったわけでもない。(161L4-2)
    - ・ 実業家は，産業に関わらねばならない。…… (162R1-3)
    - ・ 労働者もまた金銭的な事柄に関わらねばならない。…… (162R4-6)
    - ・ しかも，実業家も労働者も，ほとんど同じ生来の特質たる性癖，知力を持ちつつ，その二つの異なった方向の訓練に入っていく。とはいえ，……。 (162R6-L1)
    - この準平和的な事業体制の下では，どんな技術的進歩も締め出されてしまうように思われるだろう。(163R1-2)
      - ・ こういう組織の下では，職人技の追求というような非差別的な関心事の冷静な追求の機会ほとんど存在しないはずである。(163R3-4)
      - ・ とはいえ，事実としては，これらの近代的条件下での技術的進歩は，他のどの文化的状況におけるよりも，より大きくより急速であった。もっと詳しく注意をむけてみる必要が……。 (163R6-8)
- \* この近代的技術時代における西欧文明の拡散 (163L7-169R2)
  - 拡散の中心は北海地方，時間の点では「近代」と呼ばれる比較的平和な時期 (163L6)
    - ・ この文化的成長，技術的進歩を主導した民族の社会体制 (164R3-L7)
    - ・ この民族の精神的素質と習慣化の範囲 (164L6-166L6)
      - 金銭的文化が技術の成長を促進したのは？ (166L5-3)
    - ・ いろいろ言ってみても，それは結局のところ概して平和的な文化 (167R1-2)

- ・ 職人技本能は、後天的な性向ではないので、それが使われないからといって除去されるということとはなかった。(167L5-4)
- ・ 北欧諸民族の市民的制度は、家父長的体制に馴染まなかった。(168R4-L4)
- \* 近代的技術変化の過程 (169R3- )
  - 略奪的思考習慣の十分な訓練に欠けていたため、ヨーロッパ、特に北、西部の封建体制では略奪的文化は正常に成熟しなかった。(169R4-5)
  - ・ 半平和的段階へ移行 = 財産の確実な慣例的保有と一定の貴族階級が存在 (169L5-1)
  - ・ この移行に伴い、商業、産業、技術組織の発展が前景に……。 (169L1-170R1)
  - ・ 「国家」の財政権益に反対する「民主政体」の優越 (170R4)
  - ・ 未開の精神への条件づきの、緩和(洗練)された復帰 (170L7-6)
  - 所有権に結びつけられ、それと混合された職人技 = 差別的な競争と組み合わせられ、差別的利益を体化した制度体系と組み合わせられた職人技 (170L3-1)
- 2 競争体制
- \* 公認理論では、蓄積された「生産財貨」を重視 その自由裁量的所有権がもっとも重要な関係 所有権の決定とその金銭的取引が最も生産的 (173L5-1)
  - ・ 現在の経済理論は習慣的に、蓄積された財貨を重視。(171R2-3)
  - ・ 信用関係はなお二次的。(171R7)
  - ・ 企業資産を体化した物質的手段の装備が主要な生産要因 (171L7-6)
  - ・ 技術的熟練といった非物質的装備は環境の一細目 (171L2-1)
  - ・ このような概念は、現在の実際的な要請に妥当しないが、法の原理はこれら時代遅れの概念を具現し続けており、経済学者もそれに忠誠を捧げ続けている。(172R4-6)
- \* この近代期は手工業の興隆と共に始まり、職人技本能が、略奪文化に特徴的な差別的な利己主義的感情にとって代わり、再び前景に現れてくる。(174L8-175R4)-
  - 手工業体制がもたらす習慣的なものの見方は、技術的なそれと金銭的なそれとの二重の性質をもつ。(175R5-6)
  - ・ 職人技と自助によって組織され規制された体制 (175L4,176R6-177R7)
  - 技術的状况の変化につれて、小商業を伴う手工業体制は、金銭文化の新しい段階に分解していった。(177R8-10)
  - ・ 職人技と販売手腕の分化 (177L9)
  - ・ 生産手段を持つ親方職人による持たない職人の雇用 (177L3)
  - ・ 小商人や行商人の富裕化と連合や分岐 (177L2-178L9)
  - ・ 企業社会の発展 (178L8)
  - 大企業の原理も手工業体制のなかで培われたきたものと同じであった。(178L6-179L3)
  - ・ これら企業原理の基本原則は、略奪文化の根底に横たわり、すべての金銭的文明の本質的核をなしている、自己拡大に対する感情的衝動と同じ性質のもの。(179L3-1)
  - ・ 手工業経済と企業時代を区別する特徴は、金銭的原理の最高の支配 (180R1-2)
  - 職人技本能に対する、自己拡大の理想と差別的な競争の基準による汚染 (180R7-181R2)
- \* 近代の企業状況と職人技 (181R1-189L1)

- 近代の企業状況と職人技感覚・職人技本能在表現される技術的現象の発生論的關係の要約 (181R3-4)
- 續 競争の体制 = 平和と秩序の条件下で進行する金銭的な対抗と争いの体制 (181R5-6)
- 嬰 価格体制 = 貨幣単位が効率と成果の標準的尺度 競争と効率は、安定的貨幣単位による厳しい会計技術に従属 (1816-8)
- 鎂 機械的産業による支配 標準化 価格用語による会計技術に従属 (181L9-6)
- 銈 消費も市場メカニズムを通して価格用語で標準化される。 (181L5)
- 配 典型的産業は、大きな物質的設備、技術的な洞察と熟練への広範な依存、社会の物質的資源の大きな吸収を必要とする。 (181L3-1)
- 倍 物質的設備は私的所有権の手中に。公共施設は無料の補完物 (181L1-182R4)
- 炆 技術的な知識と熟練は、主に、社会全体で保持され、伝達されるが、一部分は特別に訓練された階級と特有な労働者によって保持されている。この知識と熟練を發揮して成果をあげるための物質的施設ないし自然資源のほとんどは大規模産業の所有者の支配下にある。 (182R4-9)
- 昱 自然資源を含む大きな物質的設備の所有者が、社会全体の技術的熟練と、炆で見た洞察と熟練の特殊な系列に対する無条件な管理権を持つ。 (182L9-8)
- 精 結局、必要な物質的設備の所有者が、社会の有用な能力と産業技術の状態の用益権とを所有することになるが、それは今それが承認されているという限定条件の下でのみ付与されているにすぎない権益なのである。 (182L6-183R1)
- 所有権者の管理能力 (183R5-187R6)
- ・ 「能率専門家」の台頭 (184L7-186L9)
    - † 生産工程での浪費 (185R8-L2) † 技術的構成の複雑化 (186R1-L9)
  - ・ 実業家の産業に対する関心の中身 = 産業の所有権と結びついた金銭的現象 (186L8-187R2)
- 近代実業社会に組み込まれた人々 = 有閑階級は存在しない (187R7-188L7)
- 産業社会の運命を蓄積された富の所有者に委ねたもの (188L6-189L1)
- ・ 技術的变化 商業の拡大 技術的規模の拡大 物的設備所有者への用益権の集中 (189R5-L4)